

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	市営城ヶ堀町住宅	階数	地上5F
建設地	兵庫県西宮市城ヶ堀町22番	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2023年4月14日
敷地面積	2,174 m ²	作成者	岩崎隆久
建築面積	920 m ²	確認日	2023年4月●日
延床面積	3,422 m ²	確認者	岩崎隆久



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.9

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	建物のほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用し、室内空気質を健全に保つことに配慮している。また住戸内部の昼光制御に配慮し、カーテンと庇を組み合わせてグレアを制御している。地球温暖化対策として、ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	その他 特になし。
Q1 室内環境	外界からの熱的侵入の抑制に配慮し、日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」における等級4相当である。また居室面積の1/8以上の開閉可能な窓を確保している。	Q3 室外環境(敷地内) 建物高さ、壁面位置、外装・屋根・庇・開口部・塀等の形状や色彩において、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。
LR1 エネルギー	建物外皮の熱負荷抑制に配慮し、日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」における等級4相当である。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、その値が一般的な建物(参照値)に対して62%である。
Q2 サービス性能	住宅の品質確保の促進に関する法律(日本住宅性能表示基準、3.劣化の軽減に関する事)における木造、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準(平成26年国土交通省告示第151号)で等級3相当である。また空調及び給排水配管の耐用年	
LR2 資源・マテリアル	非再生性資源の使用量削減に努め、躯体材料以外において、リサイクル資材を3品目以上使用している。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される